



Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2013.03) 平成23年度:152-154.

外科的フットケアにおける看護師の役割と今後の課題  
～患者アンケート調査の結果から考える～

田端彩那、山本絵莉奈、澤田浩美、阿部由佳、清水由美  
子、平瀬美恵子

# 外科的フットケアにおける看護師の役割と今後の課題 ～患者アンケート調査の結果から考える～

田端 彩那、山本絵莉奈、澤田 浩美、阿部 由佳、清水由美子、平瀬美恵子

9 階東ナースステーション

## 【はじめに】

患者の QOL の向上と医療の効率化を目的に外科的フットケアを導入してから 4 年が経過した。当初は医師と看護師数名で構成されていたチームであったが、昨年から病棟看護師全員へ移行し、外科的フットケアの質の向上に繋げることが出来ている。また、看護においてはフットケアという時間を通して患者のヘルスプロモーションや生活背景などを知り、患者理解を深めるきっかけになったと感じている。看護師内での活動も定着しつつあるが、今後の更なる活動を拡大するために、チームの活動についての評価の必要性を感じた。

## 【目的】

患者が感じている看護師が行う外科的フットケアの利点・問題点を明らかにすることで、今後の外科的フットケアの充実と患者サービスの向上に繋げる。

## 【対象・方法】

外科的フットケアを受けている患者を対象に独自で作成した調査用紙を用い、アンケート調査を行う。

## 【結果】

患者は看護師が行う外科的フットケアは、時間の融通がきく、よく話を聞いてくれるなどと感じており、抵抗がある・不安感を感じているとの回答はほとんどなかった。しかし、一方で看護師間の処置方法に統一性がないことを指摘する回答もあった。

## 【結論】

現体制の看護師が行う外科的フットケアに問題はないが、今後更なる充実のためには、看護師の統一的な介入が可能な指示系統の見直しと創傷アセスメント能力の向上が必要である。

## はじめに

看護師が行う外科的フットケアを開始してから4年が経過し、当初は数名で構成されていたチームも、現在は病棟看護師全員で取り組むまでに至っている。日々、より良いケアを目指し、検討を繰り返しているが、患者視点でチームの取り組みを評価することで、今後の課題が明確となり、フットケアの更なる充実に繋がると考え、患者アンケートを実施した。

旭川医科大学病院 2012年



## 目的

看護師が行う外科的フットケアの利点・問題点を明らかにすることで、今後の外科的フットケアの充実と患者サービスの向上に繋げる。

旭川医科大学病院 2012年



## 研究方法

### ・ 研究対象

外科的フットケアの対象者で、研究に同意を得られた者。更に日本語版ニーチャム混乱・錯乱状態スケールで25～30点の者を対象とする。

### ・ データ収集方法

紙面によるアンケート調査を実施。調査用紙は医療者ではない第三者である事務員が配布し、回収した。

旭川医科大学病院 2012年



## 用語の定義とチーム内の役割

### 【用語の定義】

看護師が行う外科的フットケアとは、医師の指示のもと、既存する潰瘍や術後創部などの破綻している皮膚に対し、洗浄や軟膏塗布、ガーゼ保護などを行うこと。

### 【役割】

医師：手術創や炎症の強い創の処置

看護師：医師の指示による、安定期の創部や足部潰瘍に対する処置

旭川医科大学病院 2012年



## 結果①

対象者21名に調査用紙を配布  
17名より回収(回収率80%)

### 1) 外科的フットケアを開始した時期

術前: 4名(25%)  
術後: 11名(69%)  
術前後を通して: 1名(6%)

### 2) 看護師が行う外科的フットケアに対する不安

不安がない: 15名(87%)  
不安がある: 2名(13%)

旭川医科大学病院 2012年



## 結果② 看護師が行う外科的フットケアの良いと思う点 (複数回答可)



